

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	社会性の形成・維持を司る神経内分泌機構の解明
研究代表者	小川 園子（筑波大学・人間系・教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>本研究は、エストロゲン受容体と行動との関連を長年研究してきた応募者が、マウスにおける時期特異的、部位特異的受容体のノックダウン法などを用いて、性ステロイドホルモンの活性作用だけでなく思春期に重点を置いた形成作用の機構を明らかにしようとするもので、神経内分泌学の分野のみならず、行動科学や精神医学などの分野にも影響を与える興味深い研究である。応募者の得意とする行動と分子レベルの関連解析を橋渡しする研究として、光遺伝学等の手法を用いた回路レベルの研究への展開は現時点では未知数であるが、若い研究者の参加も計画されており、その可能性を秘めている。このように、本研究は、社会性の形成・維持といった複雑な行動を性ステロイドホルモン及びその受容体という分子との関連で明らかにしようとする優れた研究であり、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>